

薬剤の負担増が急浮上

厚労省・健保連が保険外し迫る

参院選が終わり、政府の医療・介護の負担増計画が動き出した。負担増メニューは、▽75歳以上の患者窓口負担の2割化▽受診時特定額負担の導入▽介護サービスの利用料3割負担の対象者拡大―など多岐にわたるが、急浮上しているのが「薬剤の患者負担増」だ。

受診抑制の増加明らか

『日経新聞』は8月21日付で「市販類似薬 患者負担上げ」との見出しで、厚労省が「軽症向けの市販類似薬について患者負担の引き上げを検討する」と報じた。今秋以降に社会保障審議会で議論し、21年の通常国会で

関連法案の提出を目指す日付で「市販類似薬 患者負担上げ」との見出しで、厚労省が「軽症向けの市販類似薬について患者負担の引き上げを検討する」と報じた。今秋以降に社会保障審議会で議論し、21年の通常国会で

8月23日には、健康保険組合連合会(健保連)が医療保険財政の削減案を発表した。湿布薬や花粉症治療薬など市販薬で代用できる薬を公的医療保険の対象から外した場

合、年間2〜2.6億円の削減になると試算。次期診療報酬改定での対応を求めており、官民挙げて薬剤の自己負担増を迫っている状況だ。

市販類似薬は湿布や花粉症治療薬のほか、ビタミン剤、漢方薬、皮膚保湿剤、うがい薬、痛み止め薬など多種類に及ぶ。健保連は「医療の必要性が低い疾患のみ」を対象に保険適用を除外することを提案している。

医師会など反対、受診を抑制

しかし、湿布の場合で計算すると、処方薬では高齢者の負担(1割)は32円、現役世代の負担(3割)は96円だが、全

処方薬→市販薬で医療費2126億円減



薬剤の自己負担増を報じる各紙

額自己負担になれば薬価分320円の負担に。市販薬購入となれば約2500円が患者の負担となる。経済的理由で受診をやめたり、服用減少・中止したりする患者が増加することは明らかだ。

署名でストップを

保険適用範囲の縮小は患者を医療から遠ざけ、重症化を引き起こし、医療費の増加を招く。協会は「保険でより良い歯科医療の実現を求める」請願署名を通じ、保険範囲の拡大を訴えている。薬剤の患者負担増にストップをかけ、誰もが経済的不安なく安心して受けられる歯科医療を実現するために、署名への協力を呼び掛けている。

「保険でより良い歯科医療の実現を求める」請願署名を通じ、保険範囲の拡大を訴えている。薬剤の患者負担増にストップをかけ、誰もが経済的不安なく安心して受けられる歯科医療を実現するために、署名への協力を呼び掛けている。

第34回保団連医療研究フォーラム

【メインテーマ】

過去・いま・未来

～これからの医療をデザインする

「チーム・バチスタの栄光」「ブラックペアン1988」の作家が語る近未来の医療

記念講演

「医療エンタメとリスクヘッジ」

海堂 尊氏 医師・作家

10/13日 14日

グランキューブ大阪

[大阪国際会議場]大阪市北区中之島5-3-51

追悼

8月7日の昼過ぎの一本の電話で、今まで考えもしなかったことが伝えられた。貴島正彦先生が御逝去されたという一報だ。電話口で「何で」と叫んだ。色々と健康には留意され、食べ物、運動、日常生活を健康に過ごし、長生きできるように注意されていた。私によく「お前の葬儀委員長は俺がしたるで」と言われ、私よりの生きざされるものだと、勝

貴島正彦理事を偲んで

なくてはならぬ存在

伊津進弘 (八尾市)

8月7日の昼過ぎの一本の電話で、今まで考えもしなかったことが伝えられた。貴島正彦先生が御逝去されたという一報だ。電話口で「何で」と叫んだ。色々と健康には留意され、食べ物、運動、日常生活を健康に過ごし、長生きできるように注意されていた。私によく「お前の葬儀委員長は俺がしたるで」と言われ、私よりの生きざされるものだと、勝

生は協会運動の一環として、「生活と健康を守る会」の住民健診を個別医療方式で行う運動を広げておられた。その時に初めて面識を持った。それから長い付き合いで、協会活動や個人的な付き合いを持ち、住民が安心し

土佐の天野ぜよ



大阪大学歯学研究所教授 天野 敦雄

12回の連載を終え、前稿にて引退宣言をした私。真面目な教授(個人の感想です)に戻るために。なのに、なぜ今このコラムが?実は、編集者氏の懇請にあつさりとした翻意し続行に至った次第。東京なら意志薄弱・付和雷同と、お叱りの言葉が雨あられであるうが、大阪は違う。わーっとい散らかして、「よう知らんけどな。」の土地柄である。「なんちゃって、うそびょん」でお目こぼし願いたい。過日、S大学歯学部同窓会の講演に呼んで頂いた。司会のH教授が「今回は大阪大学の天野先生をお呼びしました。大阪ならではのユーモアで非常に判りやすくお話頂けます。リーゾナブルな紹介に「よーわかっとなるやんか」と心がつぶやく。さらに紹介は続いた。「国際学会でも天野先生のプレゼンを聞くんですけど、英語でもかなり会場を沸かせます。英語も大阪弁です」。あちゃー!そこまで大阪化してしまったか!

咀嚼玩味⑬



私は高知市出身。坂本龍馬風には言えば「土佐の天野ぜよ」である。18の春、大阪に移り住んだ異邦人はテレビ画面に腰を抜かした。アフリカ系外国人が「那智黒く」といながら踊っている。昭和の昔とはいえ、黒つなりのCMは神をも恐れぬ所業である。日常会話も奇天烈であった。「メンクサイ」、「おじやましんのやわ〜」、「うさー」。テレビのキーワードがちりばめられている。買い物のお釣りは「ハイ、300万円」。大阪人の諸兄姉には、異邦人の困惑は夢想だにできない。

生来頭の回転が速い青年・天野は、この地の法則をたちまち悟った。その頃、豊中に住む親戚に挨拶に行くよう実家から連絡があった。親戚はアルファベットが社名につくテレビ会社の偉いさんである。こは失礼がないようにと、青年は完璧な予習をした。ピンポン、ドアが開くやいなや、かねて予習の挨拶に及んだ。「ごめんください、どなたですか、天野敦雄がやってきました、お入りください、ありがとうございます。長い挨拶であったが完璧に成し終えた。満足げに顔を上げた私に注がれている視線は、異邦人を見る目そのものであった。大阪文化は深く広い。青年は修行に励んだ。あれから40年、今では二つ名をもつ。チャーリー天(あま)、と天村(あまむら)淳である(自慢すべし)。